

教科(科目)	理科	学年(系)	2年
使用教科書	未来へひろがるサイエンス (啓林館)		
副教材等	確認から発展へ 2年 (学宝社) 新ワーク理科2 啓林 (好学出版)		

### 1 学習目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

### 2 指導の重点

- ・授業を核とした、確実な基礎知識の理解を図る。
- ・観察、実験など体験を通じた技能の定着と理科への関心・意欲の向上を図る。

### 3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	備考
4 5 6	化学変化と原子・分子	○確認から発展へ ○新ワーク ○授業プリント ○実験プリント	○物質を加熱したときの変化 ○水溶液に電流を流したときの変化 ○物質のもとになる粒子 ○原子が結びついてできる粒子	10	前期中間
			○物質を表す記号 ○物質を表す式 ○化学変化を表す式	5	
			○物質どうしが結びつく変化 ○物質が酸素と結びつく変化 ○酸化物から酸素をとり除く変化 ○化学変化と熱の出入り	5	
			○化学変化の前後での物質の質量 ○反応する物質どうしの質量の割合	5	
7 9	生物の体のつくりとはたらき	○確認から発展へ ○新ワーク ○授業プリント ○実験プリント	○生物の体の成り立ち ○細胞のつくり ○細胞のはたらき	6	前期期末
			○栄養分をつくる ○植物の呼吸 ○水や栄養分を運ぶ	12	
			○栄養分をとり入れる ○動物の呼吸 ○不要な物質のゆくえ ○物質を運ぶ	12	
			○感じとるしくみ ○刺激を伝えたり反応したりするしくみ ○運動のしくみ	8	

10	地球の大気と天気の変化	1章 地球をとり巻く大気の様子	○確認から発展へ ○新ワーク	○大気の中ではたらく力 ○大気の様子を観察する	6	
		2章 大気中の水の変化	○授業プリント ○実験プリント	○霧のでき方 ○雲のでき方 ○空気にふくまれる水蒸気の量	10	
11	天気の変化	3章 天気の変化と大気の動き		○風がふくしくみ ○大気の動きによる天気の変化 ○地球規模での大気の動き	5	後期中間
		4章 大気の動きと日本の四季		○陸と海の間の大気の動き ○日本の四季の天気 ○天気の変化がもたらす恵みと災害	15	
12	電流とその利用	1章 電流の性質		○電流が流れる道すじ ○回路に流れる電流 ○回路に加わる電圧 ○電圧と電流の関係 ○電流、電圧、電気抵抗の求め方 ○電流のはたらきを表す量	14	
1						
2		2章 電流の正体		○静電気 ○静電気と電流の関係 ○電流の正体 ○放射線の発見とその利用	5	後期期末
3			3章 電流と磁界	○磁界 ○モーターのしくみ ○発電機のしくみ	12	

計 130 時間(48分授業)

#### 4 課題・提出物等

- ・週末課題を中心とした課題提出があります。
- ・夏季休業中では、自由研究を実施し、レポートを提出してもらいます。優れた研究は、郡市の発表会に選出します。
- ・その他、授業や実験でのプリントの提出があります。

#### 5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価基準
自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	<評定> 各観点の合計点 達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
以上の観点をもとに、下記の項目を総合的に評価します。 ・授業の取組（授業態度や学習活動への参加状況） ・課題への取組状況 ・小テスト、定期考査 ・実験プリントや自由研究（前期のみ）			

#### 6 担当者からの一言

2年生になり授業の内容も難しくなっていきますので、日々の授業の時間を大切に、週末課題などとおして自分がどこまで理解できているのかの確認しながら学習を進めていきましょう。また、観察・実験の際は、自らの手で行うことを大切に、班のメンバーと意見を交わしながら考えを深めていきましょう。